



「PEACE」

公開市民講座

原爆被害とは何か、 ヒロシマは何を継承するのか

【講演者】

川野 徳幸 広島大学平和科学研究中心 センター長

原田 浩徳 広島大学平和科学研究中心 客員研究員

東京薬科大学生命科学部腫瘍医科学研究室教授

志賀 賢治 広島平和記念資料館 館長

Tel: 082-210-6000 広島大学平和科学研究中心 外國人客員研究員
日本学術振興会外国人特別研究员

【日時】 平成30年3月10日(土)19時～21時

【会場】 広島平和記念資料館 3階 多目的ホール

【料金】 入場無料

【参加料】 なし

【問い合わせ】 ハリマハラム 田原邦文ほか、E-mailで、氏名、

通称名、〒739-8526 広島市南区御幸町1番地 平和記念資料館

E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp

佐野 邦也

原田 浩徳

志賀 賢治

TEL: 082-210-6000

E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp





SHU

広島大学平和科学研究センター主催
広島平和文化センター平和記念資料館 共催



IP

公開市民講座

原爆被害とは何か、 ヒロシマの命を奪むるひなか

原爆投下の「あの日」から73年、被爆者は、想像を絶する苦難や憎しみを乗り越えて、核なき世界平和の実現という重責を抱へて生きる。そして、牛飼のICANのノーベル平和賞受賞によって、その重責はあらためて注目され、評価される。

その「命を奪むるひなか」としての原爆は、本木水劫祝へイリ じはめりません。原爆被爆者吉川本木水劫祝が語る八日は年の減少してしまった6万人となりました。そういった今だからこそ、「原爆体験」とその事體である「原爆被爆」は何だったのか?なぜ?なぜ生き残ったのか?なぜ命を守るために命を守らなかったのか?なぜ生き残ったのか?なぜ命を守らなかったのか?

原爆被爆者吉川本木水劫祝の命を奪むるひなか
原爆被爆者吉川本木水劫祝の命を守るひなか

